

沼田市観光基本計画（案）

<構成>

I	観光基本計画策定の目的	1
II	観光基本計画の位置づけと期間	1
	1. 計画の位置づけ	
	2. 計画期間	
III	沼田市の観光の現状と課題	2
	1. 観光資源の現状と必要な施策	
	2. 観光関連産業の現状と必要な施策	
IV	観光振興の理念と目標	6
	1. 観光振興の理念と目標	
	2. 計画目標数値	
V	観光振興の方向性と主要施策	8
	1. 戦略マーケティング	
	2. 地域の魅力の向上	
	3. 地域内の連携強化	
	4. 広域連携の強化	
	5. オール沼田の観光まちづくり	
	6. 推進体制の整備	
VI	各施策の実施時期と実施主体	13

I 観光基本計画策定の目的

人口減少と高齢化が著しい沼田市では、定住人口の増加を図る政策だけでは人口減少を食い止めることは困難であり、観光振興により交流人口の増加を図る政策がますます重要となっています。

観光の振興によって得られる効果は観光ビジネス分野にとどまりません。観光は農林業・商工業との連携のあり方次第でその振興に密接に関わり、同時に地域の歴史や生活文化の再生・活性化とも関わりが深くなっています。

本計画は、観光を「軸」として中長期的な産業振興と地域活性化のための道筋をつけていくものであり、その目的は、観光産業の育成と新たなサービス産業の開発、及び観光の波及効果としての農林業・商工業の振興、そして、郷土の自然や歴史文化に基づく市民の郷土意識の向上、さらには、観光を通じての二地域居住等の定住人口増加の入口ともなる施策です。

このような観光振興のためには中長期的な観光計画の策定が不可欠であり、そのためには以下の2点を前提として計画、戦略的な取り組みを行います。

①経済社会環境、ひいては観光市場の構造変化への対応

経済社会環境が大きく変化する中、国内観光市場も旅行者ニーズの多様化・高度化が進展しています。さらに国内観光需要が伸び悩む一方で、国による観光立国施策の推進もあって外国人による訪日観光需要は増加基調にあります。こうした観光市場の構造変化に的確に対応します。

②観光地間競争激化への対応

北陸新幹線開業や国内における LCC 就航路線の拡大などにより、国内外の観光需要の争奪をめぐる観光地間競争は激化するばかりです。これまで観光振興に政策的な関心が乏しかった大都市圏立地都市すらも観光振興施策に取り組み始めています。こうした観光地間競争は言わば「地域総力戦」であり、これを勝ち抜いていくために産業・市民・行政が一体となった対応を行います。

II 観光基本計画の位置づけと期間

1. 計画の位置づけ

本計画は「沼田市第六次総合計画」の“地域経済（ブランド力と交流による元気創生のまちづくり）”における観光部門の基本計画として位置づけられ、沼田市の中長期的な観光振興へ向けた「羅針盤」としての性格を持っています。

2. 計画期間

平成 29 年度を初年度とし、38 年度を最終年度とします。なお、毎年度、計画の進行管理を行うとともに、5 年経過時点ですべてを見直すこととします。

Ⅲ 沼田市の観光の現状と課題

首都圏から2時間でアクセスできる地理条件で、自然豊かな土地が育む野菜やフルーツ、新緑や夏の草花、秋の紅葉、さらに冬のウィンタースポーツ、温泉まで、四季それぞれに楽しめる一方で、平日と週末、オンシーズンとオフシーズンとの差が激しく、特にGWやお盆、紅葉シーズンの週末等の混雑は激しく、局所的に働き手の不足に悩まされている事業者も少なくありません。

また、リピーターも実際に数多く存在しますが、その目的や特性の分析を行うことにより、具体的な施策に取り組むことができれば、それは集客増にとどまらず、地域のブランドづくりや定住人口増加へとつなげることができます。

さらには、群馬県の面積の3分の1を占める利根沼田地域の玄関口であり、同地域内の川場やみなかみ・片品エリアはもちろん、草津や伊香保、日光・中禅寺湖など、日帰り～宿泊の観光圏としても十分考えられることから、より積極的に効果的な取り組みが必要です。

沼田市および沼田観光のイメージ（平成27年度に実施したWeb調査より）

- ・観光地としてのイメージが湧く人は、あまり詳しく知らない人を含めても17%程度であり、全体として観光地イメージが低い。
- ・「吹割の滝」、「老神温泉」は3割強の人が知っているが、「迦葉山」や「沼田城址公園」は1割強と低い。また高齢者ほど知名度が高いが若年層は低い。
- ・訪問経験では「吹割の滝」が26%と最も高く、次いで「老神温泉」、「観光果樹園」、「玉原高原」、「川場田園プラザ」、「玉原ラベンダーパーク」が10%台で続いている。また高齢者では「吹割の滝」と「老神温泉」の訪問率が高い。
- ・観光魅力で評価の高いのは、「滝や溪谷の美しさ」と「肌触りの良い温泉」、次いで、「フルーツや農産物」、「ラベンダー等の花」であり、自然資源は評価が高いが、歴史・人文資源は評価が低い。

1. 観光資源の現状と必要な施策

（1）現状

- ・沼田市は自然豊かな歴史あるまちであり、また、農業も盛んなことから「観光農業資源」に恵まれています。
- ・沼田市の観光資源について、系統別に整理すると下表のとおりです。自然系・産業系・歴史文化系等多彩ですが、総じて自然系および産業（特に農業）・物産・食系の資源が多いことが特徴です。

沼田市の観光資源

1.自然系	桜（御殿桜、発知のヒガンザクラ、石割桜、山妻有のサクラなど） 河岸段丘（とその景観）、魅力的な坂 「21世紀の森」の緑と花 谷川岳等周囲の山々の景観 利根川・片品川での川遊び 吹割の滝 温泉（老神温泉、望郷の湯、しゃくなげの湯） 玉原高原・たんばらスキーパーク・たんばらラベンダーパーク 玉原湿原 皇海山等の山々 薄根の大クワ
2.歴史・文化系	沼田城址・真田の城下町 沼田まつりと天狗 大蛇まつり・大蛇展示施設

	須賀神社、迦葉山・弥勒寺
3.集落・街系	歴史を感じさせる商店街・老舗店 十王公園
4.産業・物産・食系	道の駅 白沢 各種フルーツ（イチゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ、リンゴ等） 各種の新鮮野菜（レタス、トウモロコシ、枝豆等） 養蜂、蜂蜜 みそ饅頭、みそパン 蕎麦、うどん 豚肉、とんかつ、とんかつ街道 鮎 木工品 酒蔵・清酒 えだまメンチ

＜比較優位が高い、沼田ならではの資源＞

自然系……………河岸段丘の景観
尾瀬や日光に近い

＜他地域にもあるが活かし方次第で比較優位となる資源＞

自然系……………星が美しい、ホテルが沢山飛んでいる
森林浴に適している（ハイキング、登山～尾瀬）
渓谷の美しさで水遊びができる（渓谷ハイキング、他）
自然に親しむことができる生活環境、里山と農村の生活文化
泉質のいい温泉が多い（老神温泉、望郷の湯、しゃくなげの湯）
冬の景観とスポーツ（スキー、スノーボード）
歴史・文化系……………歴史的な要所、文化の中心であった（沼田城址、迦葉山、その他）
人が温かい・人情味がある、ストレスフリーのまち
集落・街系……………市街地の街並み。城下町は路地が多い。レトロな小径が多い
里山の集落景観（南郷等）、懐かしげな田園風景が残っている
産業・物産・食系…フルーツ（リンゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ等）
野菜（トウモロコシ、枝豆等）
蜂蜜、蕎麦、米、水、豚肉・とんかつ

（２）必要な施策

- ・全般的課題として、埋もれた未活用の資源が多いため、今後、沼田ならではの「比較優位」資源の磨き上げ（整備・演出）が大切です。
- ・首都圏から２時間でアクセスできる地理的条件の活用、地域のブランドづくりや定住人口増加へとつなげることができる施策の検討が必要です。
- ・利根沼田広域圏での連携強化を図る必要があります。
- ・「吹割の滝」、「老神温泉」、「道の駅 白沢」など魅力的な観光資源はあるものの、それら資源が散在しており、マイカー客・団体バス客以外には観光回遊が困難となっています。
このため個々の観光資源をつなぐ市内回遊ルートに沿った景観整備や、新たな資源開発及び二次交通を含めた回遊手段の整備により、「点から線へ、線から面へ」への展開が不可欠です。

2. 観光関連産業の現状と必要な施策

（１）宿泊施設

- ・市街部はビジネスホテル系と小規模旅館が多く、利用客はビジネス宿泊、地元の料飲・宴会であり、観光客利用は学生団体が中心となっています。

- ・老神温泉は旅館が集積しており、沼田の観光宿泊の中心となっています。課題は消費単価の低迷や団体客の減少であり、温泉保養などの個人客の開拓が必要となっています。
- ・玉原高原とその周辺はペンションが中心であり、老神温泉に次ぐ宿泊収容力となっています。東京・埼玉からのスキー客が多いものの、季節変動が大きいいため稼働率が低く、このため夏季の登山や里山散策などの市場開発を行っており、夏季の入込はやや増加傾向にありますが、冬季のスキー需要減少が大きいいため宿泊者数は減少しており、ペンションの廃業が出ています。

（２）土産品販売施設（吹割の滝）

- ・中・大規模の施設と小規模施設の格差が増大しています。
- ・団体客の減少により、売上が減少しています。また、冬季は片品方面へのスキー客の立寄が中心であるが、消費単価は高くありません。また、売上は食品系が中心となっています。
- ・このため、個人客への対応、商品開発が課題となっています。

（３）飲食施設

- ・吹割の滝エリアは、（２）と同様に団体客の減少、個人客への対応が課題となっています。
- ・市街部、沿道部では、主に個人観光客にアピールしているものの、客層は地元常連客が多く観光客は全体の３割程度となっていて、個人のドライブ観光客の集客が課題となっています。
- ・個人店舗は、人件費や食材費の高騰、人手不足の問題を抱えている場合が多く、また、地元客と観光客の両方を顧客としているため、単価を上げることが困難です。

（４）観光農園

- ・イチゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ、リンゴなど四季を通じてフルーツ狩りを楽しむことができますが、後継者不足等により施設数の減少が著しく、事業者間の格差が増大しています。このため、各農園が単独ではなく全体でまとまって売り込んでいくことが課題となっています。

（５）全体に共通する課題

- ・人手不足と人件費高騰、食材費の高騰、施設の老朽化、後継者難及び ICT 分野の人材不足
- ・季節変動が大きいことによる低稼働率。オフ対策。
- ・事業者間の稼働率格差が大きいこと。
- ・増加している外国人客の受け入れ対応、整備。

（６）必要な施策

平成 26 年の入り込み客数は、289 万 9 千人。平成 23 年の 260 万 3 千人に比べ 11%増。地点別には吹割の滝への偏りが大きい。

入り込みの主力となっている吹割の滝と迦葉山、玉原高原の入り込み減少、伸び悩みが目立つ。季節・月別には冬季・春季が弱い。特に 8 月への集中が著しい。

- ・消費単価の伸び悩み、人件費高騰に対応して、商品の高付加価値化が必要です。
- ・農林業の 6 次産業化と観光との結びつきを強めるために、農業生産現場の見せ方（紹介の仕方）とその工夫（加工場を含めて）及び農林業体験プログラムの開発・提供の強化が必要です。
- ・商工業（店舗・事業所）と観光との結びつけのために、飲食店の魅力・良さの情報発信が必要です。
- ・日帰り（流動客）が多く、宿泊・滞在を増やすことが必要です。
- ・季節変動が大きいため、特に春・冬対策が重要です。
- ・沼田市全体および各観光資源の知名度が低いいため、大河ドラマ「真田丸」放送を契機とした「沼田市」の認知度の向上を図る必要があります。
- ・知名度と訪問率が高く、一極集中となっている「吹割の滝」から市内各所への分散を図るために、誘導の工夫や二次交通の整備が必要です。
- ・周辺市町村も含めた広域的な売り方（日光、尾瀬、川場、みなかみ等）と、都市・温泉地とし

での拠点性の活用・イメージアップが必要です。

- ・来訪者、特に宿泊客の満足度の向上（「沼田観光」の品質保証）により、リピーターの増加を図ることが重要であり、これは滞在客の増加から二地域居住へと、定住人口の減少に歯止めをかけることにつながります。
- ・観光誘客プロモーションの面からは、多様な市場（発地域）・客層へのきめ細かな対応のために、ターゲットに合わせた地域・施設別のコンセプト（イメージ）・コンテンツ開発が必要です。
- ・情報発信では、マスメディア・旅行会社対応とともに、インターネットによる情報発信を戦略的に行うとともに、ＩＣＴシステムを維持管理できる人材確保と組織の整備が必要です。
- ・沼田市の立地条件の優位性である「各観光地へ行くのに便利な位置にある沼田」を活かして、「沼田を宿泊滞在拠点」とする「一日観光圏」の形成と訴求が必要です。
- ・増加が目立つインバウンド対策では、個人（ＦＩＴ）対策とターゲット市場（国・地域）の明確化とその客層に対応した商品開発、案内表示等の受け入れ体制の整備が必要であり、これは、訪日リピーターが多く、かつ沼田市と交流チャネルがある台湾を重点市場とし、中長期的には東南アジアを狙う戦略となります。

Ⅳ 観光振興の理念と目標

1. 観光振興の理念と目標

(1) 理念 オール沼田の観光まちづくり

人口減少と高齢化が著しい沼田市にとって、観光振興は地域が将来にわたって持続的に発展していくための基幹となる政策です。そのためには、観光産業・市民・行政の三者が連携した「オール沼田の観光まちづくり」が必要であり、その振興の理念を以下のとおりとします。

- ①市民が誇り、市民が輝くまち
- ②「森林文化都市」として、自然と歴史文化のあるまち
- ③観光をとおして、市民と来訪者が多様にふれあうまち

(2) 3つの観光振興像

- ①来訪者が四季折々、何度も訪れたい、豊かな自由時間を過ごしたいと思うまち
ー「四季折々の魅力、美しい景観、多様なアクティビティ、新鮮な食材」ー
- ②健康保養増進のまち
ー「温泉と森林、新鮮な食材」ー
- ③来訪者が市民と様々な触れあい・交流し、人の温もりを感じるまち
ー「市民の郷土意識、地域への誇り、地域全体での“おもてなし”」ー

(3) 「連携」と「市民参加」を軸とした推進体制の構築

以上の理念と目標の実現のためには、観光産業・市民・行政が組織や団体の枠組みを超えた連携により、柔軟でスピードを持った計画推進ができる体制を構築します。

- ①マーケティング情報の収集と、観光産業・関連産業・市民への情報提供の強化
ー観光統計の充実、市民への観光ニュースレターなどによる告知ー
- ②広域連携のための組織強化
ー各地域間の連携に加えて、周辺市町村との連携ー
- ー一次産業から三次産業までの異業種間、行政の各部署の間での連携体制ー
- ③市民参加のための組織づくりと観光人材教育の強化
ー学校教育、まちづくり組織などを通じての観光への理解促進ー
- ー観光産業、観光関連産業領域での起業支援ー

2. 計画目標数値

全般的な「観光活性化」指標として、入込観光客数と宿泊客数、観光消費額及び観光客の満足度を設定します。

①入込観光客数

平成 26 年：延べ 2,899 千人・地点

平成 32 年：延べ 3,189 千人・地点（対 26 年 10%増。沼田市第六次総合計画より）

平成 38 年：延べ 3,508 千人・地点（対 32 年 10%増）

②宿泊客数

平成 26 年：168 千人泊

平成 32 年：185 千人泊（対 26 年 10%増）

平成 38 年：204 千人泊（対 32 年 10%増）

③観光消費額

・宿泊および日帰りの消費単価の目標

平成 26 年：宿泊消費単価 8,880 円／人、日帰り消費単価 1,550 円／人

平成 32 年：宿泊 9,150 円／人（対 26 年約 3%増）、日帰り 1,600 円／人（対 26 年約 3%増）

平成 38 年：宿泊 9,610 円／人（対 32 年約 5%増）、日帰り 1,680 円／人（対 32 年約 5%増）

・観光消費額の目標

平成 26 年：57 億 1,651 万円

平成 32 年：64 億 9,915 万円

平成 38 年：75 億 1,116 万円

④観光客の満足度

平成 26 年：84.6%

平成 32 年：87.3%

平成 38 年：90.0%

V 観光振興の方向性と主要施策

前章で定めた観光振興像を実現し、数値目標を達成するための方向性と施策を以下のように定めます。

＜方向性＞

1. マーケットを想定し、戦略を持って臨む ～戦略マーケティング～

ICTの活用、きめ細かな情報発信を推進していきます。

社会やニーズの変化にスピーディーに対応し、またその範囲をアジア等へと広げていきます。

2. 地域の魅力の向上

埋もれた観光資源を発掘し、既存の資源は磨き上げます

ゾーンごとに沼田の個性を引き出し、沼田市全体のイメージアップを図ります。

3. 地域内の連携強化

観光事業者、市民、行政ほか、地域内の様々な企業や団体と連携をすることで、より魅力的な商品の開発、おもてなしの向上に努めます。

周遊ルートの整備、二次交通の改良、各観光スポットへのアクセスの見直しなど、利用者のユーザビリティ向上を目指します。

4. 広域連携の強化

利根沼田地域の玄関口として、地域内の中心となる観光拠点を目指します。

広域周遊のニーズを踏まえ、地域間連携の強化を図ります。

5. オール沼田の観光まちづくり

連携の課題に一つ一つ向き合い、市民参加を第一に、沼田ぐるみ、全員参加の観光まちづくりを実現していきます。

市全体で来訪者へのおもてなし、交流を図ります。

6. 推進体制の整備

既存の観光協会組織の相互交流・再編・強化、観光案内機能の充実など推進体制を整備します。

＜施策＞

1. 戦略マーケティング

（１）地域ビジョンの設定

- ・地域の魅力について、ストーリー化、共有化、ブランド化を図ります。

（２）来訪者のターゲッティング

①ターゲットの設定と見直し、モデルプランの作成

各観光ゾーンにおいて、来訪者のターゲットの設定及び見直しを行い、その上で、季節、客層におけるモデルプランを作成し、パンフレット、HP等で活用します。

（例）老神温泉立地旅館におけるターゲット客層の明確化と、客層に合わせた商品内容の工夫

○高齢夫婦・若者・ファミリー：年間通して、多種多様なフルーツ（リンゴ、サクランボ、ブルーベリー、ブドウ）を育むまち

○高齢夫婦・女性グループ：旬の新鮮野菜に恵まれたまち（各種野菜、トウモロコシ、枝豆、蜂蜜、蕎麦、米、水）

○ファミリー・高齢層：春秋の森林浴に適したまち、星が美しくホテルが飛び交うまち

○若者・ファミリー：多彩なウィンタースポーツが楽しめるまち

②外国人観光客の誘致と積極的な受け入れ対応

- ・広域観光ルート形成のため、国、県、近隣町村との連携推進
- ・台湾を主たるターゲットとした国際交流の推進
- ・観光・飲食・小売り関係事業者レベルの受け入れ意識と対応力の向上
- ・多言語案内表示の整備

（３）情報発信

①誘客プロモーション

イベントへの参加出展、HPやSNSの積極的活用

首都圏、関西圏、県内主要都市等、距離に応じたきめ細かなプロモーション戦略

②地域イメージの発信

- ・きめ細かな情報発信
- ・市場、客層による訴求イメージ・コンテンツ・ツールの使い分けの工夫
※対象客層およびコンテンツとして、滞在客、野外スポーツ体験、農業体験
- ・対象市場・客層を踏まえたイメージ訴求
多様なイメージを多様な客層に訴求

③利根沼田のファンづくり

2. 地域の魅力の向上

（１）既存観光資源の魅力向上

①老神温泉・吹割の滝ゾーン

- ・健康美容の泉質（老神温泉）アピール
- ・老神温泉周辺遊歩道の整備（川遊びポイント含む）と体験プログラム開発
- ・南郷温泉のイメージアップと曲屋の活用～外国人向け日本文化紹介の拠点
- ・吹割の滝における、トイレ等の受入基盤の整備

②玉原高原・迦葉山ゾーン

- ・玉原高原における案内表示の整備と湿原の保全
- ・「天狗の寺」として迦葉山のイメージアップとさらなる活用、案内表示等誘導の促進
- ・ラベンダーパークと玉原湿原の結びつけの工夫
- ・民宿・ペンションのアピールポイントの明確化
蕎麦など料理面、「合宿」など客層面、自然ガイドなど「体験魅力」面

③沼田公園を中心とする市街地ゾーン（歴史文化ふれあいゾーン）

- ・真田氏、土岐氏等の歴史文化資源の発掘・整備
- ・市街部の老舗&名物店舗・歴史的でレトロ家屋等の「まち歩き」での活用
- ・沼田公園を拠点とする魅力ある市街部まち歩きルートの設定
- ・沼田城および沼田公園に関わる史実の掘り下げとその情報発信
- ・市街部を拠点とした「1日観光圏」の設定～利根沼田広域圏も含めて

（２）スムーズな周遊基盤づくり

①交通基盤の充実、二次交通利便性の向上

- ・利用しやすさに関する調査を行う。関係者による検討会の設置

②トイレ、標識、ユニバーサルデザイン、インバウンド対応

- ・全面的な調査・検討を行い、優先的なものから改修等行います。

（３）良好な景観整備（風景づくり）

- ・景観の魅力を高めるルールづくり

「観光地」ならではの魅力ある自然・里山・田園・集落・市街地の修景および景観形成の推進

- ・河岸段丘を周遊する散策コース等の整備
- ・吹割の滝周辺における修景、遊歩道の動線整備
- ・老神温泉街周辺の散策コース等、環境整備
- ・花めぐりマップ等による散策コースの設定

（４）自然を楽しめる環境整備

- ・自然との触れ合い環境の充実
- ・自然環境の保全、再生、美化
- ・エコツーリズムの推進

3. 地域内の連携強化

（１）観光交流を活かした街のにぎわいづくり

- ・商店街や沼田公園の整備・活用
- ・既存の祭り等の観光客へのアピールの強化
- ・観光交流型企画の実施

（２）観光交流・滞在プログラムの充実

①農林業・商工業と観光の連携推進

- ・見せる場、体験する場としての農林業・商工業の活用

②観光農園等における体験と滞在（休憩と飲食等）の魅力づくり

- ・一般農地のピューポイント、見せ方、営農促進
- ・農林業体験プログラムのメニュー開発、ガイド人材育成
- ・自然や歴史、農林業・商工業を活かした多様な観光体験商品の開発と通年観光利用の促進
- ・春夏秋冬、特に春および冬の体験商品開発

③文化資源の活用

- ・重要文化財等を回遊する観光コンテンツの整備
- ・生方記念文庫や旧沼田貯蓄銀行で行われるイベントとの連携
- ・文化施設を活用したイベントの推進や連携

（３）地域の食と物産の魅力向上

- ・既存の郷土料理の見直しや地域メニューの深化

- ・宿泊施設の付加価値として地場農産物等の活用
- ・既存の特産品の紹介・販売促進に向けた工夫

(4) 地域資源を活かした周遊ルートの整備・開発

- ①吹割の滝、老神温泉、迦葉山・玉原高原、市街部を有機的に結ぶルートの整備
 - ・河岸段丘、望郷ライン、道の駅白沢、迦葉山、ルート周辺立地の飲食・物販店舗のイメージアップ
- ②線（ルート）としてのイメージアップ
 - ・とんかつ街道、フルーツ街道、片品川渓谷ルート、歴史文化ルート、広域サイクリングとウォーキングルート
 - ハイキング、ウォーキング、登山ルートについては皇海山などの登山系、玉原高原散策などの高原系、雨乞山、戸神山、三峰山、河岸段丘散策などのテーマ系
- ③上毛高原、沼田駅からの公共交通の利便性の改良
 - バス路線とダイヤ、観光乗合タクシー等
- ④ICT活用、マップ製作、観光案内サイン等

4. 広域連携の強化

- (1) 広域圏を対象にした商品、滞在プログラムの開発・提案
 - ・尾瀬・谷川や登山・温泉・街道等を絡めたプログラムの開発・提案
 - ・「真田街道」を中心とする「真田観光圏」(仮)の形成とイメージアップ
 - ・若山牧水や生方たつ彥等、文化人の歌碑めぐり
- (2) 滞在中における情報の提供
 - ・広域パンフレットの作成や情報の共有
 - ・案内窓口の機能整備
 - ・ICTやSNS活用による情報提供やツールの開発
- (3) 広域連携推進の強化
 - ・協働事業の実施や、協議会等の機能強化
 - ・広域観光推進母体づくりへ向けた利根沼田広域観光振興組織の整備
 - ・姉妹都市(下田市、フュッセン市)との積極的連携

5. オール沼田の観光まちづくり

- (1) 地域の課題の共有
 - ・理念や目標、計画の共有
- (2) 住民参画の促進
 - ・観光まちづくりに関する情報の発信、共有
 - ・誰でも参加できる仕組みづくり
 - ・住民の観光意識の向上と、おもてなし力の向上
 - ・フォトコンテスト等の開催による、沼田のイメージアップ
- (3) 小中高生の郷土意識向上と観光への理解向上による交流促進
 - ・風土教育、地理歴史文化の教育と実践
 - ・伝統行事や町内単位の祭りの活性化積極的支援
 - ・町内単位の祭りを含む伝統行事の年間スケジュールの作成、公開

- (4) 観光まちづくりに関わる人材の育成
 - ・研修、勉強会、市民向けワークショップの計画的実施
 - ・観光ガイドの育成
- (5) 観光交流推進
 - ・継続的な交流プログラムの拡大
 - ・観光交流型コンテンツの開発
 - ・交流を「次」につなげるための仕組みづくり

6. 推進体制の整備

- (1) 観光推進組織の強化
 - ・既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化
 - ・観光商品開発・プロモーション・観光案内機能の整備
 - ・観光振興に関わる組織的・制度的担保
- (2) 計画遂行の管理
 - ・観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）

VI 各施策の実施時期と実施主体

1. 実施時期と実施主体

注) 実施時期は平成29年度基準

注) 実施主体は、行政：主として市 事業者団体：観光協会・商工会議所・商工会・JA等
事業者：観光商工事業者・農林業者 市民・団体：一般市民・市民団体

	施策概要	実施時期			実施主体			
		3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
戦略マーケティング	(1)地域ビジョンの設定 ・地域の魅力について、ストーリー化、共有化、ブランド化を図る		○		○	○	○	○
	(2)来訪者のターゲティング ・ターゲットの設定と見直し、モデルプランの作成 ・外国人観光客の誘致と積極的な受け入れ対応		○ ○		○ ○	○ ○	○	
	(3)情報発信 ・誘客プロモーション ・地域イメージの発信 ・利根沼田のファンづくり	○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○	○
			○					
地域の魅力の向上	(1)既存観光資源の魅力向上 老神温泉・吹割の滝ゾーン ・健康美容の泉質（老神温泉）アピール ・老神温泉周辺遊歩道の整備と体験プログラム開発 ・南郷温泉のイメージアップと曲屋の活用	○	○ ○		○	○ ○ ○	○ ○ ○	○
	玉原高原・迦葉山ゾーン ・玉原高原における案内表示の整備と湿原の保全 ・「天狗の寺」として迦葉山のイメージアップ ・ラベンダーパークと玉原湿原の結びつけの工夫 ・民宿・ペンションのアピールポイントの明確化	○ ○	○	○	○	○	○ ○	
	沼田公園を中心とする市街地ゾーン ・真田氏、土岐氏等の歴史文化資源の発掘・整備 ・老舗＆名物店舗・歴史的でレトロ家屋等の「まち歩き」での活用	○		○	○ ○	○		
	・沼田公園を拠点とする魅力ある市街部まち歩きルートの設定 ・沼田城及び沼田公園に関わる史実の掘り下げとその情報発信 ・市街部を拠点とした「1日観光圏」の設定～利根沼田広域圏も含めて	○	○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○	○	○
	(2)スムーズな周遊基盤づくり ・交通基盤の充実 二次交通利便性の向上 ・トイレ、標識、ユニバーサルデザイン、インバウンド対応	○	○		○ ○	○	○	
	(3)良好な景観整備(風景づくり) 景観の魅力を高めるルールづくり ・自然・里山・田園・集落・市街地の修景および景観形成の推進		○		○	○	○	○
	良好な景観を活かした散策コースづくり ・河岸段丘を周遊する散策コース等の整備 ・吹割の滝周辺における修景、遊歩道の動線整備 ・老神温泉街周辺の散策コース等、環境整備 ・花めぐりマップ等による散策コースの設定	○ ○	○ ○		○ ○	○ ○	○	
	(4)自然を楽しめる環境整備 ・自然との触れ合い環境の充実 ・自然環境の保全、再生、美化 ・エコツーリズムの推進	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○	○

施策概要	実施時期			実施主体			
	3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体

地域内の連携強化	(1)観光交流を活かした街のにぎわいづくり ・中心商店街や沼田公園の整備・活用 ・既存の祭り等の、観光客へのアピールの強化 ・観光交流型企画の実施	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	(2)観光交流・滞在プログラムの充実 ・農林業・商工業と観光の連携推進 ・観光農園等における体験と滞在の魅力づくり ・文化資源の活用	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	
	(3)地域の食と物産の魅力向上 ・既存の郷土料理の見直しや、地域メニューの深化 ・宿泊施設の付加価値として地場農産物等の活用 ・既存の特産品の紹介・販売促進に向けた工夫	○ ○ ○				○ ○ ○	
	(4)地域資源を活かした周遊ルートの整備・開発 ・吹割の滝、老神温泉、迦葉山・玉原高原、市街部を有機的に結ぶルートの整備 ・線（ルート）としてのイメージアップ とんかつ街道、フルーツ街道、片品川溪谷ルート、歴史文化ルート、広域サイクリングとウォーキングルート ハイキング、ウォーキング、登山ルートについては、皇海山などの登山系、玉原高原散策などの高原系、河岸段丘散策などの ・上毛高原、沼田駅からの公共交通の利便性の改良 バス路線とダイヤ、観光乗合タクシー等 ・ICT活用、マップ製作、観光案内サイン等	○ ○ ○	○		○ ○ ○	○ ○ ○	

広域連携の強化	(1)広域圏を対象にした商品、滞在プログラムの提案、開発 ・尾瀬、谷川、登山、温泉、街道等絡めたプログラムの開発・提案 ・真田街道を中心とする「真田観光圏」（仮）の形成 ・若山牧水や生方たつゑ等、文化人の歌碑めぐり協働事業	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	(2)滞在中における情報の提供 ・広域パンフレットの作成や提供の共有 ・案内窓口の機能整備 ・ICTやSNS活用による情報提供や交流ツールの開発	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	(3)広域連携推進の強化 ・協働事業の実施や、協議会等の機能強化 ・広域観光推進母体づくりへ向けた利根沼田広域観光振興組織の整備 ・姉妹都市（下田市、フュッセン市）との積極的連携	○ ○ ○			○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

オール沼田の観光	(1)地域の課題の共有 ・理念や目標、計画の共有	○			○	○	○
	(2)住民参画の促進 ・観光まちづくりに関する情報の発信、共有 ・誰でも参加できる仕組みづくり ・住民の観光意識の向上と、おもてなし力の向上 ・フォトコンテスト等開催による、沼田のイメージアップ	○ ○ ○	○		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	(3)小中高生の郷土意識の向上と観光への理解向上による交流促進 ・風土教育、地理歴史文化の教育と実践 ・伝統行事や町内単位の祭りの活性化積極的支援	○ ○			○ ○	○ ○	○ ○

	施策概要	実施時期			実施主体			
		3年以内	5年以内	10年以内	行政	事業者団体	事業者	市民・団体
まちづくり	・町内単位の祭りを含む伝統行事の年間スケジュールの作成、公開	○			○	○		○
	(4)観光まちづくりに関わる人材の育成							
	・研修、勉強会、市民向けワークショップの計画的実施	○			○	○		
	・観光ガイドの育成	○			○	○		
	(5)観光交流推進							
	・継続的な交流プログラムの拡大	○			○	○		
	・観光交流型コンテンツの開発	○			○	○		
	・交流を次につなげるための仕組みづくり	○			○	○		
推進体制の整備	(1)観光推進組織の強化							
	・既存の観光協会組織の相互交流、再編・強化		○		○	○		
	・観光商品開発・プロモーション・観光案内機能の整備	○			○	○		
	・観光振興に関わる組織的・制度的担保	○			○			
	(2)計画遂行の管理							
	・観光基本計画の進行管理（観光活性化推進協議会）	○	○	○	○			